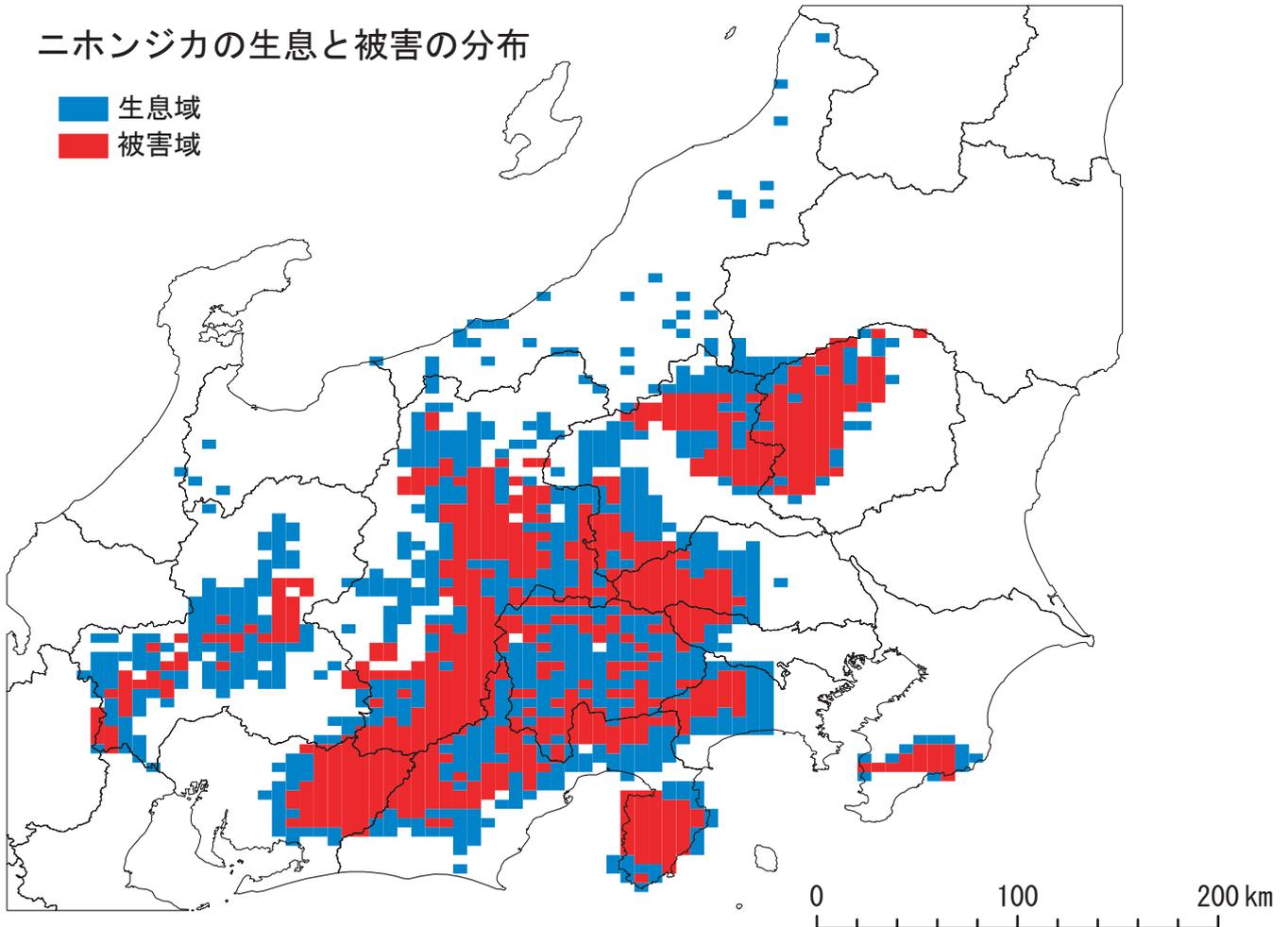


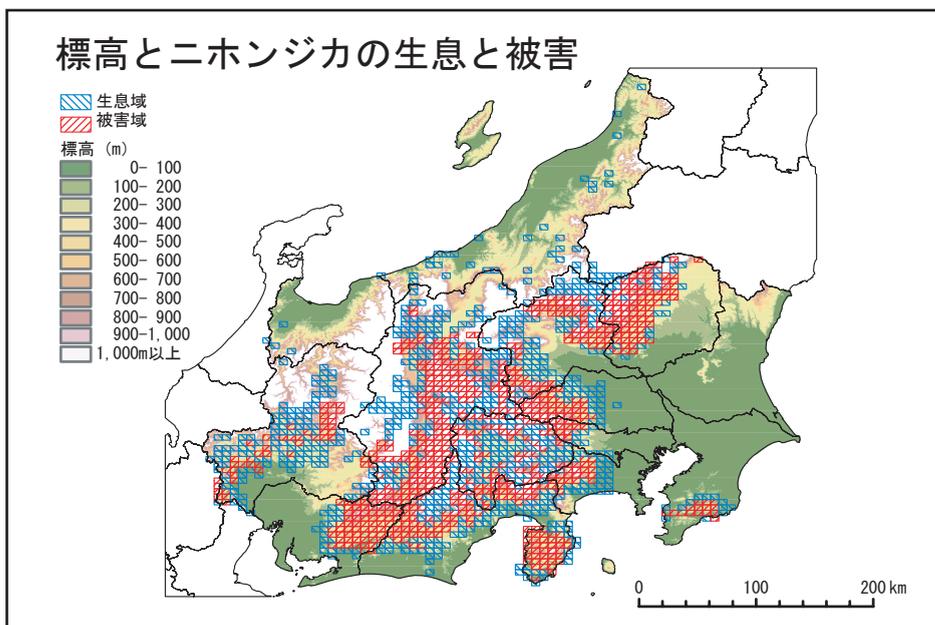
深刻化するニホンジカによる森林被害

関東中部地域でもニホンジカが増加し、その食圧や踏み荒しなどによる森林への被害が深刻化しています。被害は人工林だけでなく、自然林へも広がっています。林床植生が失われると土砂崩れが発生することもあり、私たちの生活に直接悪影響を及ぼします。

ニホンジカの生息と被害の分布



標高とニホンジカの生息と被害



日本海側ではシカの生息箇所も少なく、まだ被害の発生もありません。

ニホンジカの生息・被害の分布と標高との関係を見ると、分布は平野部よりも標高の高い県境付近に偏っています。シカの被害対策には、今後、各県の連携による広域の取り組みが不可欠です。

※シカの生息と被害の分布情報は、2004-2007年度に得られたものを使用

※標高は国土地理院数値地図250mメッシュ(標高)を使用

※富山県、新潟県のシカ分布情報は環境省生物多様性センターの2002年のデータを使用

とりまとめ：関東中部林業試験研究機関連絡協議会「樹木に枯死をもたらす生物害研究会」

技術協力：森林総合研究所九州支所 近藤洋史

シカが増えて森林にいろいろな変化が…



栃木県民の森管理事務所



角とぎ痕



静岡県農林技術研究所
森林・林業研究センター

植栽木への被害



千葉県森林研究センター

林床植生の消失



静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター
植生が失われ土砂が流出



東京都農林総合研究センター

シカによる森林への被害を防ぐ取組が始まっています。

急斜面版シカ侵入防止柵



東京都農林総合研究センター

電気柵による高山植物の保護



栃木県林業センター

防鹿柵設置による植生の回復



柵設置前



柵設置1年後

東京都農林総合研究センター

※各写真右下に提供元を記載

このパンフレットは関東中部林業試験研究機関連絡協議会「樹木の枯死をもたらす生物害研究会シカ害分科会 (H17-19 年度)」が作成しました。 発行：2008年3月

お問い合わせ：分科会幹事 栃木県民の森管理事務所鳥獣課 (0287-43-0479)

または各都県の森林・林業試験研究機関および森林総合研究所野生動物領域